

地域の中でできること～地域の中の施設として共生に向けた取り組み～

取り組み内容のポイント 当法人は「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される施設を目指します」を理念に掲げ、地域の方に当施設を身近に感じていただき、入居者・職員が地域の一員であるとの意識のもと施設づくりを行っている。自治会への加入・会議室の開放等の取り組みがある中で、職員の専門職としての知識を地域の方へ広めていくことで、地域との更なる共生を目指す。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-5-15

TEL：0859-23-6800 FAX：0859-23-6583

◆法人設立年

昭和61年6月

◆法人実施事業

①経営施設数合計：16施設、169事業

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…7、軽費老人ホーム…5、老人短期入所事業…7、通所介護(老人デイサービス事業)…18、小規模多機能型居宅介護事業…5、生活支援ハウス…4、認知症対応型共同生活介護…8、老人居宅介護等事業(訪問介護)…4、介護老人保健施設…3、訪問看護事業…3、訪問入浴…1、福祉用具貸与…2、指定居宅介護支援…5、地域包括支援センター…3、高齢者向け優良賃貸住宅…1、高齢者専用賃貸住宅…2、特定施設入居者生活介護…5、通所リハビリテーション事業…5、短期入所療養介護事業…3、リハビリテーション病院…1、保育所…6、障害福祉サービス事業…5

◆法人の理念・経営方針

<理念>

私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される『こうほうえん』を目指します

<基本方針>

私たちは、サービス業のプロとして、正しい情報を伝達し、自分が受けたい、保健・医療・福祉サービスの提供・改善に努めます

◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

◆取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

きんかい幸朋苑

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム…30名、併設短期入所生活介護…6名

◆活動内容

◇活動開始年：平成18年5月

◇活動の対象者：地域住民

◇活動の頻度・時間：

状況に応じ対応しており頻度は決まっていない。時間は2～3時間程度。

◆活動実施の背景、実施にいたった理由

きんかい幸朋苑の立地場所は新興住宅地の一角にあり、スーパー、医院、理髪店、喫茶店、医療福祉専門学校、同法人の錦海リハビリテーション病院といった社会資源がある。地域住民は、若い子育て世代と75歳以上の高齢者世代が多く、日頃より世代間の交流は薄いと思われ、日中は若い世代は留守が多く高齢者世帯のみが暮らすといった状況である。このような土地に当施設が開苑したことで、若い世代と高齢者世代の架け橋になればという思いと、地域の一員になりたいという思いで、開苑5年間で地域との共生を目指し、取り組みを行ってきた。その中で、施設内で年2回行っている職員対象の救急講習会への参加を、錦海町の老人クラブに声をかけたところ9名の参加があった。講習中も積極的な意見と、その後のアンケートでも定期的な開催を希望される声が多くあった。このことがきっかけで、施設の役割として職員の持つ専門職としての知識を地域へ広めていけたらとの思いで、地域(貢献)活動の中に専門職ならではの「健康について」をテーマにした取り組みを加え、地域の方が参加しやすいように職員が地域へ出向く形での活動を始めた。

◆実施内容

①施設内での救急講習会の開催(心肺蘇生法・AED使用法)年2回の施設職員対象の救急講習会の開催時に、自治会へも回覧板を通じて案内を行った。また、実習受け入れ施設でもあるため、実習生へも参加の呼びかけをした。

②納涼祭での健康相談

事前案内として納涼祭ポスターや回覧板で自治会へ案内した。地域からの来苑者を対象に、骨密度測定・血圧測定・疾患別のパンフレットを配布しての健康相談を行った。

③施設外での救急講習会(心肺蘇生法・AED使用法)

・錦海町自治会の集会所で開催

事前に自治会長へ案内し、回覧板を利用し全世帯にも案内した。地域のスーパーへポスターを貼らせてもらい、当日は地域の有線放送で参加者を呼びかけた。

・介護の日（11月11日）に市内のデパートで開催
買い物客を対象に事前にポスターやチラシで案内し、当日は午前10時～と午後14時～の2回に分けて開催した。

・他事業所エリアへも出向き開催

同法人の事業所のある他地域の公民館へ出向いての救急講習会を開催した。

④認知症サポーター養成講座の開催

祇園町公民館を会場として実施した。

◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

施設内での救急講習会后、地域の方にアンケートをとった結果、「また参加したい。」「何度でも参加することが大切」等の意見があった。また、「方法を知っていたらいざという時、助け合える」と言われた方があり、高齢者世帯同士、緊急時に対応できる知識を得たいという前向きな思いがあることが分かった。自分達の暮らしを助け合いながら守りたいという思いはあっても、知識・技術を得る機会が今まで無かったことは事実のようである。その後、介護の日の救急講習会では約20名の参加があり、若い世代の参加も多かった。活動場所を施設内に留まらず、施設外に移した理由として、地域の方が日頃から利用し、集まりやすい環境のほうが交流が深まるのではないかとの考えからであった。結果、気軽に参加でき、効果的であったと思われる。更に、職員が地域の資源を活用することで地域の一員としての自覚や、サービスをより知ってもらうことができ、地域との相互関係を築くことができたのではないかと感じた。その他、認知症サポーター養成講座や健康相談等の取り組みを行っているが、ここでは年齢層も様々であった。施設の取り

組みの中から薄れていた世代間の交流が生まれるきっかけになったと感じた。これらの取り組みから、年齢に関係なく「健康について」の意識は高く、機会があれば積極的に参加したいとの思いがあることが分かった。

◆今後の展開

開苑5年間で、様々な地域活動の取り組みを行ってきた。他にも風通しの良い施設を目指し施設機能を地域の方へ開放している。地域の小学生たちが遊びスペースに訪れたり、会議室では中・高生が勉強に訪れる姿が見られている。今後は若い世代にも目を向け、職員の持つ専門性を生かして、小・中・高校への訪問など活動範囲を広げ福祉教育の一助として担っていきたいと考える。社会福祉法人として、地域福祉の拠点として次世代へつなげる架け橋でありたいと思う。そして、職員一人一人が地域の中の一員であると意識し地域と施設の共生を目指して努力し続けていきたい。

◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 31名
（職種等：取り組みに応じて各職種が対応）



会議室での勉強風景



集会所での救急講習会



施設内での救急講習会



市内デパートでの救急講習会